

「独立系ホテルを元気にする」がモットー 相互信頼を大切に、送客を中心として 独立系ホテルが必要なサービスをラインナップ

(株)Aカードホテルシステム(ホスピタリティパートナーズグループ)
(株)ホスピタリティパートナーズ 企画調査本部 ヴァイスプレジデント
(株)Aカードホテルシステム 執行役員
(株)ホスピタリティオペレーションズ フランチャイズ事業部 部長
内藤信也氏



Shinya Naito

〈プロフィール〉1994年12月米国ペンシルバニア州立テンブル大学卒。その後2003年7月までブルームバーグL.P.に勤務。05年5月米国コーネル大学ジョージン・スクールにてMBA取得後、(株)グラクソ・アンド・アソシエイツ、ADインベストメント・マネジメント(株)、ジャパ・アンド・リゾート(株)を経て08年1月(株)ホスピタリティパートナーズ入社。08年3月、(株)Aカードホテルシステムの執行役員を兼任。12年4月より(株)ホスピタリティオペレーションズのフランチャイズ事業部・部長を兼任、現在に至る。

業績好調の2ホテルの集客をさらに伸ばすべく中山氏が下した決断は新たな送客パートナーとの提携だった。特に第二富士ホテルにおいては名古屋中心部にはあるものの、「名古屋」や「栄」といった主要駅ではない立地もあり、集客面では課題となっていたが、(株)Aカードホテルシステムおよびそのグループ企業との提携がそこに大きな解決策をもたらした。その詳細を同グループにおいて要職を兼任する内藤氏に聞いた。

2ホテル同時加盟が理想も1商圈 1ホテルのルールがハードルに 「相互信頼」を大切にすることがゆえの ジレンマ

(株)Aカードホテルシステムの加盟ホテルは全国で381施設ありますが、東海道新幹線の主要駅である名古屋において加盟ホテルはそれまで3ホテルのみでした。そのため、中山さんから第一・第二と二つのホテルの加盟に関するご相談をいただいた際は非常にうれしく思いました。ところが、私たちAカードのポリシーとして、ホテル様との相互信頼を大切にしながら加盟ホテルを増やしている関係から、原則「1商圈1ホテル」というルールがあり、新規に加盟のご希望をいただいたホテル様が既存加盟ホテル様と同じ商圈に入る場合は、その既存加盟ホテル様の了解をいただく必要がありました。その結果、残念ながら第一富士ホテル様に関しては加盟がかなわず、第二富士ホテルのみ加盟となった経緯があります。

私たちとしては加盟ホテルが増えれば増えるほど会員数も増加し、Aカード施設様にとってもメリットがあると考えてはいますが、加盟ホテル様

によっては同じ商圈内に加盟ホテルが増えることをメリットとお感じいただけない場合もあります。私たちとしては、常に「独立系ホテルを元気にする」、そして「相互信頼」この点を大切にしている点から、どうしてもこのようなケースが発生してしまう場合があります。

しかし、Aカードへの加入は第二富士ホテル様のみとなりましたが、両富士ホテル様には、グループ会社のMICEに特化したエージェントである(株)ホスピタリティエージェントとご契約をいただきまして、中山さんからのお話にもありましたが、契約後、継続的に両ホテル様に会議・研修やそれに伴う宿泊の送客させていただいています。

グループ全体で「独立系ホテルを元気にする」をまじめに実践

私たちの強みはグループ企業がそれぞれの強みを活かして総合的に独立系ホテル様の経営・運営を幅広くサポートできることです。先ほどの(株)ホスピタリティエージェントによるMICEの送客はじめ、(株)ホスピタリティパートナーズとしてのホテルの新規開発支援、M&Aアドバイザー、不動産仲介、経営コンサル

ティング、(株)ホスピタリティオペレーションズによるレストランやリゾート、シティ、ビジネス問わないホテルの運営事業およびコンサルティングなどを行なっています。

少し手前味噌な話になってしましますが、私たちグループのモットーは「独立系ホテルを元気にする」です。これをよくありがちな口先だけのきれいごとでなく、ビジネスとして非常にまじめにやっていると自負しています。中山さんからおっしゃっていただきましたが、Aカード加盟ホテル様に対するアフターフォローは営業スタッフがしっかりとさせていただいていますし、その他でも必要と思われるサポートは積極的にさせていただいています。それは、私たちがAカード加盟をご検討いただいているホテル様に対して加入のメリットとしてお伝えしていることだからであり、ビジネスとしてのお約束だからです。そういった積み重ねの結果、加盟ホテル数が、2008年の(株)Aカードホテルシステムが私たちのグループとなって以降、急激に伸びている事実につながっているのだと確信しています。今後もその点は変わらず「独立系ホテルを元気にする」にまじめに取り組んでいきたいと思えます。